

宮崎県立看護大学大学院看護学研究科 平成21年度博士論文要旨

病院管理・看護管理実践における 看護管理者の認識の構造

中條和子(理論看護学)

【キーワードズ】 副院長・看護部長, 看護管理, 判断規準, 看護理論, 認識の構造

本研究は、病院長との共通の目標「医師と看護師が車の両輪になる病院をつくる」に向かって、看護理論「看護とは、生命力の消耗を最小にするよう生活過程を整えることである」に導かれて、対象に三重の関心を注ぎつつ実践した、副院長・看護部長として歩んだ15年間の自己の管理者としての認識の構造を明らかにすることを目的とする。

研究方法は、自己の病院管理・看護管理の実践内容を、膨大な諸記録をもとに時系列に沿って整理し、社会的変化を重ねて経過表を作成、取り組みの特徴に焦点を当て、変化があった時期を見出して5期に分けて研究資料とした。

研究資料を精読し、各期の管理者の認識をたどりながらキーセンテンスを選択して、「管理者が着目した事実」「管理者の判断」「管理者の行動」の項目をもつ素材フォーマットに記入し、研究素材とした。先ず、研究素材を分析して各期の管理者の認識の特徴を抽出し、次いで、文献検討から得られたナイチンゲールの「病院とは」「看護とは」「看護管理とは」の一般論に照らして管理実践内容を分析し、管理実践に適用しやすい指針として23項目を抽出し、これら指針の共通性・相異性を吟味したところ、以下の6項目となった。

- 1 管理者は、よりよい医療をめざして、それぞれの専門職が互いの専門性を理解して協働できる体制を整える。
 - 2 管理者は、入院患者に限らず在宅療養をしている患者にも、24時間継続して看護を提供できる体制を整える。
 - 3 管理者は、患者の疾病動向や地域社会の医療ニーズを捉え、地域の人々の健康を守る医療・看護を提供できる体制を整える。
 - 4 管理者は、全ての職員が病院の目標に向かって、それぞれの役割がはたせるように、各部門の体制を整える。
 - 5 管理者は、看護師個々が、患者をひとりの人間として尊重し、根拠ある看護実践ができるように、教育体制を整え、一貫した看護理論に導かれた実践力の向上を図る。
 - 6 管理者は、看護師個々が、患者の生命力の消耗を最小にすることを目標に、よいケアが実践できるように看護師の看護力の向上を図る。
- 以上より、病院管理・看護管理実践における管理者の認識の構造は、「医師と看護師が車の両輪になる病院をつくる」という目標に向かって、ひたすら患者を見つめ、同時に、看護師の頭を見つめ、看護する体制を整え、看護実践能力の向上を図りつつ、病院の体制を整え、全ての職種が専門性を発揮し協働することを推進して、病院が地域住民の健康を守るための役割を果たせるようにと拡がって、よい医療の実現に向かって、看護の実践力向上を図りつつ、病院全体を発展させていくという構造をもっていることが明らかとなった。